



大会通し今も続く参加者との交流

生物学

私は4年前の高校3年生の時、ハンガリーで開催された国際生物学オリンピックに日本代表として参加しました。

私は地方の公立高校に通っていたのですが、入部した自然科学部の先生に予選参加を勧められ、生物学オリンピックに挑戦しました。

当時は、中学の理科程度しか知らず全く歯が立ちませんでした。パズルのようでユーマーもある問題に夢中になりました。その後はリベンジに向け、勉強し、次の年ほとんどん拍子に本選、代表選抜試験に進み、気が付いたら日本代表に選ばれていました。

生物学オリンピックに参加して、新しい知識を得てさまざまな実験をさせてもらった

経験は現在の糧となっていています。最も印象に残っていることは、大会参加を通じたいろいろな人との交流です。本選の全国大会では、全国から集まった生物や科学好きの人と

出会い、地元の友人とはできないような話をたくさんしました。国際大会でも、不慣れな英語を使いながら中国代表の選手と日本の「サブカル文化」

ンピックに参加する以前は、科学オリンピック参加者のような人たちのことを遠い世界の住人に感じていました。しかし、大会参加を通して、彼ら彼女らがただ自由に学習を楽しんでいるのだと知り、私も学校や受験の勉強とは別の好奇心のままに勉強する楽しさを知りました。

現在は東京大学の理学部生物学科に進学して生物学の勉強・研究を続けていますが、大学での活動でも生物学オリンピックで知り合った人たちのつながりは続いています。例えば、生物学オリンピックの参加者と同じチームに参加してiGEMという合成生物学の世界大会に参加しました。

生物学オリンピックでは、その後も続く体験とコミュニケーションが得られました。ぜひ高校生の皆さんは参加してみてください。

生物学オリンピックに参加して、新しい知識を得てさまざまな実験をさせてもらった



生物学オリンピックに参加して、新しい知識を得てさまざまな実験をさせてもらった